

## 福岡市環境教育・学習計画推進協議会 議事録 要旨

- 日 時：平成27年3月23日（月）10：00～12：00
- 場 所：西鉄イン福岡（アクロス福岡前）2階Aホール

### ■議事1:福岡市環境教育・学習計画(第三次)の素案について

（事務局）資料1及び参考資料に基づき、第三次計画の骨子及び素案について説明。

#### ◇各委員からの主な意見

〈全体の骨子と構成について〉

- ・各実施主体が取り組むことによって、福岡市環境基本計画（第三次）の〈めざすまちの姿〉にどのようにつながるのかが、少し見えにくい。
- ・部門横断的に取り組んだときに、どこかの部門が抜け落ちない形で進めてもらいたい。
- ・「学び、ふるまい、行い、つなぐ」というキーワードのうち、市民団体は「つなぐ」、学校は「ふるまい」、行政は「学ぶ」という役割が弱い。
- ・伝えたいことが分かりやすく伝わるように、色使いや色の組み合わせなどを工夫してほしい。

〈第1章～第3章について〉

- ・8ページの取組の視点では、第二次計画の「人づくり・地域づくり」の視点を第三次計画でも継承しているが、第二次計画での成果と残された課題を示した上で、第三次計画でも引き続き継承するという流れで記述すると、継承することの意味がより明確になる。
- ・人づくりの3つの要素（9ページ参照）のうちの一つ、「行動を起こす際に必要となる知識」は、知識だけでとどまってよいのか。思考・判断といった意味も含めるとよい。
- ・10ページでは、会社、市民団体や学校などもひとつの「地域」として捉えるが、主体は5つに限定しているため、本計画では、計画を実行する上での重要な主体として市民、市民団体、学校、事業者、行政の5つを位置づけると記載したほうが、その後の具体的な施策にもつながっていくのではないかと。
- ・21ページの「若者のごみ捨てマナー」の表にリサイクル不可能とリサイクル可能の値が示されているが、何を表しているのかがよく分からない。
- ・21ページの「若者のごみ捨てマナー」の表は、戸建て住宅タイプと、都心单身タイプと、集合住宅タイプというカテゴリー分けで若者のごみ捨てマナーを見たということが伝わる表示にするとよい。
- ・4～5ページの「2 環境教育・学習の意義」は、「意義」と「ESD」と「いのち」と「まとめ」という4つのカテゴリーに分けられるので、小見出しをつけるとよい。
- ・「つなぐ」というキーワードは非常に重要。取組紹介には、実際につながっている事例を載せたほうがよい。51ページの「一緒に取り組む活動紹介」については、つながっているからこそその効果などを表現するとよい。
- ・学校の環境学習における「つなぐ」取組みとして、子どもたちが主体的に学び、自分たちが考えたことを地域へ発信する活動や、地域や企業をゲストティーチャーとして呼んで学ぶ活動がある。
- ・38、39ページの事業者の取組紹介は、縦割りの取組みが多いので、連携した取組みも紹介するとよい。
- ・45ページの「環境問題について相談や解決ができる場や仕組みが検討されることが必要」とあるが、このイメージがつかめない。
- ・事業者が果たすべき役割がもっとあるということを、強く記述してもよいのではないかと。

〈第4章、第5章について〉

- ・55ページにある第4章の見方について、破線の四角の囲みについて説明がない。具体的な取組みの例との違いがないのであれば、同じ表現にしたほうがよい。
- ・57ページの若年層への啓発支援の部分は、ごみ減量・リサイクルだけでなく、省エネ、節エネ、温暖化対策についても関心を持ってもらわないといけな。
- ・60ページの事業者の取組みに、事業者同士がつながるといった視点があるとよい。

- ・ 63 ページのプログラムの提供と共有・活用については、具体的なシラバスを「ベッタ会」で作っている事例もある。後日送るので参考にしてほしい。
- ・ 64 ページの基本的方向 7 に「リーダーやコーディネーターを育成・把握・活用」とあるが、「活用」という言い方に、やや抵抗感を感じる。修正したほうがよい。
- ・ 67 ページの基本的方向 9 で、「各主体」といっても、1 人の人がいろいろな属性を持って、各主体での機能を持っているのだということをまず前提にしながら、だからこそ、つながりやすいということを強調すべき。
- ・ 77 ページのエネルギー消費量の単位である「ギガジュール」は、市民には分かりにくいので、「一般家庭の平均の使用電力量」や「キロワットアワー」にしたほうがよいのではないか。
- ・ 福岡市の電力使用量は、九州全体の電力使用量の 10% を占めており、エネルギーをたくさん使用しているという事実を計画のどこかに示してほしい。

## ■議事2:まもる一む福岡の再構築について(報告)

(事務局) 資料 3 に基づき、福岡市保健環境学習室『まもる一む福岡』の今後のあり方の案について報告。

### ◇各委員からの主な意見

- ・ 楽しいことをすれば人は集まる。
- ・ 情報発信と人集めがキーになる。人も情報もこちらから発信していれば、自然に集まってくる。
- ・ 低炭素社会関連の展示やエネルギーの出前授業には、会社として協力できる。
- ・ まもる一む福岡に行けば、このようなことが学べて、このような体験ができるということを、分かりやすくアピールすれば、多くの人に利用してもらえ施設になる。
- ・ リアルな情報で、ニーズがあって大事なことや暮らしと環境がつながるものが集まるとよい。
- ・ 情報が伝わらないと人は集まらない。福岡市 P T A 協議会では、毎月 1 回、各区代表が集まる会議がある。イベント等がある際に連絡してもらえば、各区に情報発信できる体制が整っている。
- ・ 環境に関する住民の関心が高い。興味がわくような出前講座を企画してもらえば、全公民館に紹介できる。その出前講座の中で、まもる一む福岡でしかできないことを P R してもらおうと、行ってみたいと思う人も増えてくるのではないか。

### ■事務連絡

(事務局) 次回の協議会は 5 月に開催する予定であることを連絡。

### ■閉会